

各国及び我が国のBSEサーベイランスの分析・評価に関する研究

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構動物衛生研究所
筒井俊之

2 研究期間

2005～2006 年度 (2 年間)

3 研究目的

各国のBSE発生リスクを評価する場合には、BSEの浸潤状況を把握するために各国が実施しているサーベイランスの評価が重要となる。このため、本研究では、わが国で実施しているBSEサーベイランスの結果を詳細に評価分析するとともに、各国のサーベイランス実施状況や家畜飼養状況を調査し、わが国を含む各国が実施するサーベイランスを定量的に評価する手法を確立する。

4 研究内容及び実施体制

① 国内サーベイランスの分析

家畜個体識別システムや死亡牛サーベイランスのデータを用いて、国内の牛の飼養動態等を分析する。

② 各国におけるサーベイランス実施状況の分析

各国で実施されているサーベイランスに関するデータを用いて、サーベイランスの実施状況及び感染牛の摘発状況を分析する。

③ 各国・機関が検討しているサーベイランス評価手法の分析

各国・機関が検討しているサーベイランス評価手法に関し、その妥当性や問題点を分析する。

④ 新たなサーベイランス評価手法の開発

各国、我が国におけるサーベイランスの実施状況、各国・機関が検討している評価手法を踏まえ、新たな手法を検討・評価する。

5 目標とする成果

各国で実施されるBSEサーベイランスを適正に評価する手法が確立される。これにより、BSE対策の一環として非常に重要な、輸入管理措置の検討に当たって必要となるサーベイランスの評価手法を広く海外に提案することが可能となり、アジア唯一のBSE発生国としての知見を活かした国際的なBSE対策への貢献が期待される。

各国及び我が国のBSEサーベイランスの分析・評価に関する研究

三菱総合研究所

動物衛生研究所

EU各国、米国、豪州等

- ・家畜飼養状況
- ・サーベイランス実施状況

OIE、EU委員会、米国等

- ・各国、機関が検討しているサーベイランス評価手法

日本

- ・個体識別事業情報
- ・と畜場サーベイランス
- ・死亡牛サーベイランス

各国サーベイランス
実施状況の分析

各国サーベイランス
評価手法の分析

国内サーベイランスの分析
(各国で検討されているサーベイランス
評価手法への適用を考慮)

新たなサーベイランス評価手法の確立

適用・分析

新たな評価手法を用いた、国内及び海外の適切なサーベイランス評価が可能となる。

〈インプット〉

〈アウトプット〉